

新島襄の宗教思想と 建学の精神

1. 会衆派教会
2. 学校と教会
3. 良心教育
4. 自由自治
5. 卒業生



1. 会衆派教会 Congregational Church

- 同志社が立脚するキリスト教は、プロテスタントイズム、とりわけ、会衆派。
- 会衆派の歴史
 - 1534年、ヘンリー8世が離婚問題をめぐって対立したカトリック教会から、英国国教会を独立させる。
 - 宗教改革の精神の徹底を求めた「ピューリタン」(清教徒)の群れの中から、会衆派、長老派、バプテストが生まれる。
 - 国教会との衝突後、オランダへ逃亡。



2

- 1620年、ピルグリム・ファーザーズたちがメイフラワー号で新大陸を目指す。ボストンを中心に植民地を形成。後に、アメリカ・オランダ改革派教会、アメリカドイツ改革派教会、クエーカーが入植。
- ニューイングランド、とりわけ、マサチューセッツ州では会衆派の影響が大きい。



3

プリマス(ボストン)



会衆派教会の特色

- 民主的で自由主義的な教会運営。それぞれの教会の独立性を重んじる。
- 学校設立に力を注ぐ
 - 1636年、ハーヴァード大学(ケンブリッジ)
 - 1710年、イエール大学(ニューヘブン)
 - 1778年、フィリップス・アカデミー
 - そのほか、大学として、ウィリアムズ大学、オベリン大学(共学)、ダートマス大学、マウント・ホリヨーク・セミナリー(女子)、スミス大学(女子)、ペロイト大学など。神学校として、アンドーヴァー、ユニオン、ニューヘブン、シカゴ、ハートフォード、オベリンなどを設立。



5

同志社と会衆派教会

- 新島の通算8年間に及ぶアメリカでの生活圏は、ニューイングランド、とりわけボストンを中心とするマサチューセッツ州にほぼ限定される。
- アメリカン・ボードの宣教師や新島が日本にもたらした「**会衆派教会**」は、日本では「**組合教会**」(正式には「**日本組合基督教会**」)と呼ばれた。



6

名称について

- 小崎弘道
 - 「会衆教会と称すべしとの議もあれば、又其の教会精神が自治・独立・自給を最も尊重するが故に、自治教会若(も)しくは独立教会と称すべしとの議もあったけれども、熟議の末、唯各地にある在る独立の教会が協力一致、組合をなして伝道や教育や慈善の事業を営むことなれば、簡単に組合教会と称すべしとの議が多数の容るる所となり、組合教会と称せらるることとなった。」

2. 学校と教会

- 新島のモットー
 - 「自由教育、自治教会、両者並行、国家万歳」
- 1876年、京都市内に三つの教会を設立
 - 京都第一基督公会(ドーン宅)
 - 京都第二基督公会(新島襄宅)：新島が牧師
 - 京都第三基督公会(ラーネッド宅)
- 1886年、同志社チャペルの建設を機に、同志社教会と平安教会に再編される。
- 1941年、組合教会は「日本基督教団」に統合される。
 - 現在の同志社の教派は「日本基督教団」ということになる。

3. 良心教育

- 「良心」は、会衆派の神学と深い関係を持つ。
 - 会衆派牧師ノースロップ(1895年来日)
 - 「聖書の第一の目的は全く良心を鍛錬することにあると信じる。」
- 新島は宗教教育によって「良心」を触発、啓発されたと考えた。「一国の良心」ともいうべき人々の育成を目指した。
 - 「良心碑」は6本存在する。
 - 今出川、京田辺、同志社香里中高、新島学園、高崎自然公園、アンドーヴァー

良心教育

- 海老名弾正「良心の宗教」
 - 「吾人の宗教は良心の宗教たらざるべからず。良心は単に是非善悪を知るの心に非ず。茲(ここ)に宇宙の根帯と一味相通ずるものある也。良心は実に神の宮殿也。良心の權威は此の点に存す。吾人が神を覲るは茲にあり。吾人は基督の胸底に之を見たり。而(しか)も基督の良心を吾が良心の中に自覚するに至っては、人生無上の光栄にして真に是れ醍醐至樂の境。」

4. 自由自治

- 新島は牧師であるが、神学者ではない。
 - 神学書は言うまでもなく、著作そのものがない。
 - 教義論争(たとえば、1886年の「アンドーヴァー論争」)に大きな関心を示さない。しかし、人とお金が来るかどうかという現実的な問題には終始関心を払った。また「教会政治」(教会の運営論)には格別の関心を向けた。
- 会衆派の特質：自由自治
 - 個々の教会の独立と自治
 - 教会員の平等と人格の尊厳
 - 良心の自由の尊重

新島にとっての「自由」

- 教会合同運動(1886年に始まった、長老派系一致教会と組合教会を合同させようとする運動)に対して、新島は批判的であった。
 - 「自由」を犠牲にしてまで合同したくないと考えた。
 - 「自由」は「良心」だけに束縛されたもの。
 - 新島にとって、一致教会は、一部の者が実権を掌握する貴族政治あるいは寡頭政治であった。
 - 「民主主義の愛好者」である新島にとって、教会政治としては会衆派が最善であった。
 - 地方を軽視した中央主導の運動の進め方に対しても、新島は非民主的であると感じた。

5. 卒業生

- 「木の良し悪しはその実によって分かる」(マタイによる福音書12:33)
 - 学校や大学の評価はその卒業生によって大半は決まる。
- 三大私学
 - 慶応義塾: 「財界」に人材を輩出
 - 早稲田: 「政界」に人材を輩出
 - 同志社: 宗教界、学界、教育界、社会事業・社会福祉といった「精神的な領域」に逸材を輩出


13

卒業生

- 宗教界
 - 小崎弘道、宮川経輝、海老名弾正(組合教会の三元老)
- 社会福祉・社会事業
 - 留岡幸助: 「家庭学校」(児童自立支援施設)を創設
 - 山室軍平: 「日本救世軍」の父として社会事業に取り組む。
 - 石井十次: 「岡山孤児院」の創始者
- 学界
 - 東京大学へ: 中島力造と元良(もとら)勇次郎
 - 早稲田大学へ: 大西祝(はじめ)、安部磯雄、岸本能武太、村井知至(ともよし)、家永豊吉
- 教育
 - 二宮邦次郎: 松山東雲学園を創立
 - 麻生正蔵: 日本女子大学校(日本女子大学)校長
 - 長田(おさだ)時行、伊庭菊次郎: 梅花女学校長

14

卒業生

- 柏木義円
 - 新島精神の体現者、安中教会牧師
 - 非戦主義の立場に立つ
 - 日清戦争や日露戦争に反対して、発禁処分を受けながらも主筆を務める『上毛(じょうもう)教界月報』紙上で非戦論の論陣を張る。
 - 日韓併合にも反対。
 - 「ひとりが大切」という新島の姿勢を継承

15